

第2回鎌倉街道上道を歩く ⑨

＜ドリームハイツ～藤沢＞

距離 約7km

1. 日時 2023年5月19日(金)
雨天の場合は 5月23日(火)
2. 集合場所 所沢駅 ホーム中央階段下 8:15
3. 出発時間 8時21分(快速中華街行き)
4. 昼食 12時30分頃 鎌倉釜飯かまかま



所沢 8:21-9:43 横浜 9:52 東海道線-10:01 戸塚 (トイレタイム) -戸塚
バスセンタ 10:15-10:36 ドリームハイツ……遊佛寺-江ノ電 藤沢
-極楽寺駅-長谷駅-鎌倉駅

コースガイド

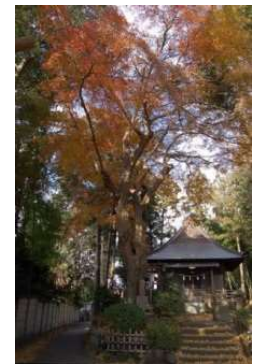
- ・藤沢についたら江ノ電で極楽寺へ行きます。極楽寺坂を越えて長谷から江ノ電に乗って鎌倉へ。江ノ電に助けてもらって鎌倉駅まで行きたいと思います。
- ・昼食場所は前回行って評判だったドルチェ・ビータは価格が高くなったので他の店にします。

① 集められた庚申塔: 俣野町の三叉路の角に3基の庚申塔とその台座部分にコンクリートで塗り込められた庚申塔があります。撤去された物が集められたのでしょう。



鎌倉街道から左にそれて俣野神社に行く。

② 俣野神社: 石橋山合戦で源頼朝と戦った平家側の総大将大庭影親の弟俣野五郎景久宅の跡があるという。この神社のイロハモミジは見事です。(写真は約17年前12月撮った物)



余談: 俣野景久は相撲の名手といわれていました。その俣野の22連勝を阻んだのが河津祐泰、その時の技をのちに河津掛け(かわづがけ)というようになったといえます。

③ 俣野観音堂: 富士川の戦いに敗れた俣野五郎景久は北陸で平維盛軍に合流したが、俱利伽羅峠の戦いで木曾義仲と戦い討死した。観音堂は、最後の時に家臣に託し故郷の相模国俣野村に送った守護仏であった観音像を祀ったとされます。(今回は割愛)

- ④ 龍長院:室町時代、真言宗の寺として龍長庵を創立、慶安元年(1648)に永井丹波守白元が当地の領主になった時に堂宇を改築し、宗派も曹洞宗に改宗し龍長院に改めた。寺の地蔵堂には、俣野五郎景久の石像が安置されているといひます。境内の左手には滝もあり、またイチョウの巨木もある。



なお、入り口には鎌倉街道の説明板があるが今回はこの大船から巨福呂(こぶくろ)坂へ行くルートはとらない。

- ⑤ 八坂神社:創建は八代将軍吉宗の治世であった享保18年(1733)の創建。鳥居の前は四つ角になっており、ツゲの大木の下に、数基の庚申塔などがある。そのひとつは延宝8年(1680)の銘がある庚申塔で、他にも道標を兼ねた「右 かまくら道」「左 八をうじ道」と刻まれた庚申塔があり、「鎌倉街道西の道」と書かれた上ツ道の説明板がある。なお、左手の道も大船、北鎌倉を通過して巨福呂坂から鎌倉へ行く鎌倉街道である。



- ⑥ 昼食 鎌倉釜飯・純豆腐かまかま:常時30種類を超える釜飯をそろえている。加えて、話題の韓国料理、純豆腐(スンドゥブ)。丸2日煮込んだ牛骨スープに自家製おぼろ豆腐、あさり、ねぎ、卵を入れ、土鍋でアツアツに煮えたぎった状態でお出ししております。

<https://www.kamakama.jp/kamameshi-menu>

- ⑦ 国道1号線手前の石塔群:鎌倉街道は国道1号線(東海道)にぶつかる。その手前に庚申塔、地神塔などの石塔がある。ここから先、鎌倉街道は姿を消してしまいま



す。鎌倉攻めの新田軍は遊行寺に集結し、そこから鎌倉に向かいました。東海道を通過して遊行寺に行きます。

- ⑧ 遊行寺:時宗の総本山で藤澤山無量光院清浄光寺というのが正式な名前ですが、遊行寺の方が知られています。

遊行寺は、俣野町、東俣野町、西俣野の領主だった俣野氏の一族である俣野五郎景平(前述の五郎景久の末裔)が開基です。時宗は一遍上人が開いたものですが、遊行寺は景平の弟であった遊行第四代吞海上人が正中2年(1325)に廃寺極楽寺を清浄光院として再興したのが開山と言われます。





本堂



一遍上人

遊行とは僧などが布教や修行のために諸国を巡り歩くこと。

時宗の指導者は遊行上人と呼ばれ、回国巡行を続けたが、晩年に遊行を続けることが困難になると、清浄光寺に引退した。寺に住むようになった上人は藤沢上人と呼ばれたが、鎌倉時代末以降、藤沢上人が没すると回国中の遊行上人はその地位を後継者に譲って藤沢上人をつぐのが慣例となった。この事から、遊行寺と呼ばれている。

・敵御方供養塔：応永 23 年(1416)に、上杉氏憲(禅秀)が足利持氏に対して反乱(禅秀の乱)を起こした。この乱によって両方に死傷者が多く出たので、僧と近在の人々と共に敵味方両軍の傷ついた人々たちを収容して治療を行うとともに、戦没者を葬り敵味方の区別なく平等に供養し、その霊を弔いました。



・酒井忠重逆修*六地藏・五輪の塔

六地藏は萬治 3 年(1660)に酒井長門守忠重が施主となって、遊行 39 代慈光上人の代に建立されました。施主の酒井長門守忠重は出羽鶴岡城主酒井忠勝



の弟で逆修のために建立されたとされます。

五輪塔には、「寛文六(1666)丙午歳 光岳院殿従五位 前長州太守 鏡誉宗円大居士 酒井長門守忠重 九月十八日」と記されています。遊行 39 代慈光上人は羽州最上の出身であることから、忠重との関係は深いものがあつたのではないのでしょうか。

※逆修：生前に、自分の死後の冥福(めいふく)のために仏事をする事。あるいは年老いた者が、年若くして死んだ者の冥福を祈ること。

・小栗判官・照手姫の墓：長生院は浄瑠璃で名高い小栗判官・照手(てるて)姫ゆかりのお寺です。常陸小栗城が足利持氏に攻められて落城し、城主の子判官助重が、家臣と逃げのびる途中この藤沢で毒殺されかけた。このとき妓女 照手が助重らを逃がし、一行は遊行上人に助けられました。その後、助重は家名を再興し、照手を妻に迎えました。助重の死後、照手は髪を落とし長生尼と名のり、助重と家臣 11 人の墓を守り、余生を長生院で過ごしたとされています。



照手姫の墓

・俣野大権現：所沢市久米の長久寺が寄進・建立した。地藏堂の前にある。

・遊行寺の大イチョウ：樹齢 500 年(一説に 700 年)といわれ、藤沢市の天然記念物に指定されています。昭和 57 年の台風により、約 3 分の 1 が折れてしまいましたが、現在は見事に繁茂しています。幹周り 7m 強。



・板割浅太郎の墓：国定忠治でおなじみの板割浅太郎、遊行寺の黒門をくぐり、すぐ左手の墓地の突当りに「貞松院住職列成和尚」の墓があり、その横に「板割浅太郎の墓の由来」という案内板がある。

・惣門：大きな黒の冠木門が遊行寺の惣門で、今日では遊行寺の黒門と呼ばれています。それから続く石段は、阿弥陀様の四十八願にたとえて、四十八段となっています。



・隅切三(すみきりさん)



時宗の宗紋は、「折敷に三文字紋」、「隅切三(すみきりさん)」です。これは一遍上人が出られた伊予の河野氏の家紋から採られました。稲葉家の出自も河野氏で家紋は、時宗の宗紋と同じなのです。春日の局の嫁ぎ先は稲葉家なので、麟祥院の春日の局の墓にもこの紋が使われていました。

⑨ 旧東海道：遊行寺の惣門を出た所は旧東海道です。藤沢は品川、川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚に次ぐ東海道の6番目の宿場です。



宿場は藤沢駅の方ではなくて、遊行寺橋を渡って右手の方向が宿場の中心です。

⑩ 極楽寺坂

藤沢から江ノ電に乗って極楽寺坂に向かいます。極楽寺坂は新田義貞の鎌倉攻めの激戦地です。

新田義貞軍の鎌倉攻め

分倍河原・関戸の戦いで「北条幕府軍」を撃破した「新田義貞軍」は町田七国山を越え、「鎌倉街道上道」を南下し、藤沢「遊行寺」に大軍を集結させた。

鎌倉は天然の要害でもある「尾根」が三方を囲み、出入口となる七つの切通しを突破しなければならなかった。

義貞は軍勢を三手に分け、

「巨福呂坂」に堀口貞満

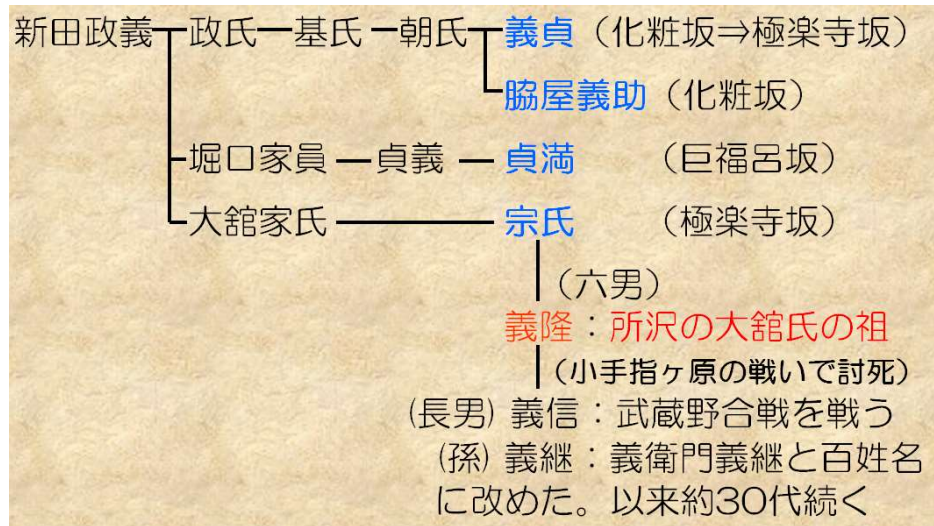
「化粧坂」に義貞自身と弟脇屋義助⇒二日目 義貞は極楽寺坂へ

「極楽寺坂」に大館(おおだち)宗氏を配し ⇒二日目 極楽寺坂

5月18日火蓋が切って落とされた。

極楽寺坂の大館宗氏は、稲村ヶ崎を突破、鎌倉に侵入、前浜付近を焼き払ったが「幕府軍」は「北条高時」の配下を差し向けてきたため、大館宗氏はここで戦死した。

新田義貞は「化粧坂」を弟脇屋義助に任せ、主力を率い、この方面に転じたが、「極楽寺坂」は険しく、容易には破れなかった。5月22日、稲村ヶ崎の干潮を利用し、海岸線を突破。極楽寺坂の背後に廻り難攻の極楽寺坂を破った。これを聞き、勢いづいた全義貞軍はドット鎌倉に侵入。追い詰められた「北条高時」は切腹し30歳の生涯を終えた。頼朝以来141年続いた鎌倉幕府はここに滅亡した。



所沢の小手指に多い大館さんは、新田一族で家紋は新田家と同じ大中黒を用いています。所沢の大館さんは本来“おおだち”ですが、友人の大館さんは面倒だから“おおだて”に変えたそうです。



大中黒

なお、上図の大館義隆以降の記述は大館神社の記述によるものです。(ウィキペディアによれば所沢の大館氏が新田大館氏の系譜を引くかは資料では確認できていないとのこと)

- ⑪ 極楽寺 『極楽寺縁起』によれば、当寺はもと深沢（鎌倉市西部）にあった念仏系の寺院を、正元元年（1259）、北条重時が当時地獄谷と呼ばれていた現在地に移したものであるという。ここに極楽寺が建てられたのは、現実には死骸が遺棄されたり、行き場を失った者たちが集まったりする「地獄」ともいうべき場所になっていたためとの指摘があります。

極楽寺の実質的な開祖である忍性が当寺に入寺したのは文永4年（1267年）のこととされています。極楽寺の古絵図を見ると、往時の境内には施薬院、療病院、薬湯寮などの施設があり、医療・福祉施設としての役割も果たしていたことがわかる。

国指定史跡「極楽寺境内・忍性墓」

極楽寺の先は江ノ電で唯一のトンネルだそうです。

- ⑫ 成就院・極楽寺切通 極楽寺切通は現在では自動車道路として整備されていますが、鎌倉時代は成就院の前を通っていたと思われます。(タモリは幾つかある成就院の階段の平坦部は昔の道が繋がっていた場所で、何回も切通が低くされた跡ではないかという説を唱えた)
成就院はアジサイ寺として有名ですが、アジサイが咲いていない時も由比ガ浜あたりの海が見えて良い場所です。

- ⑬ 星の井 鎌倉十井の一つ。この辺りは山深く、うっそうと木々が繁り、昼でも暗かったため、井戸を覗くと星が輝いて見えたという伝説からこの名がある。

- ⑭ 力餅屋 創業約300年の店、権五郎力餅（@95円）が名物だそうです。

店の前に御霊神社を示す石塔があります。横には「はせくわん音への道」と彫られています。今回は長谷観音には行かず直接長谷駅に向かいます。



帰路予定 長谷 15:57-16:01 鎌倉 16:03 湘南新宿ライン

17:14 池袋 所沢帰着 18時頃予定

~~~~~  
最終回は鎌倉七口の一つの朝比奈切通に行ってみたく思います。



